



11月6日(木)には「筑紫地区人権教育研究交流推進委員会研究協力校事業 太宰府東中プロック研究発表会」を無事に開催することができました。研究協議会でいただいたご意見やご指導、またアンケート結果などをこれから実践につなげていきたいと考えています。

インターネット上の情報利用について

オーストラリアでは16歳未満のSNS利用を禁止する法律が今年の12月10日までに施行されるなど、インターネット上の情報利用の在り方が世界的な問題になっています。耳慣れない言葉ではありますが、最近、「フィルターバブル」「エコーチェンバー現象」の意味を知りました。これらの言葉は、情報が偏ることで、私たちの考え方が一方的になり、社会の分断につながる危険性を指摘する概念のことです。このことについて、少し紹介したいと思います。(参考:「正しく疑う 新時代のメディアリテラシー」池上彰監修)



「フィルターバブル」

「無意識のうちに情報の泡の中に閉じ込められている」状態を意味し、インターネットのシステムが原因で、ユーザーが見る情報が偏ってしまう現象のことです。ユーザーの過去の検索履歴、クリック履歴、「いいね!」、滞在時間などのデータを分析し、ユーザーが好むと予測される情報(記事、動画、広告など)を優先的に表示します。結果として、ユーザーは、自分が見たい情報やすでに持っている意見を肯定する情報ばかりに囲まれてしまい、自分と異なる意見や、新しい視点に触れる機会が失われてしまうそうです。

「エコーチェンバー現象」

「反響室」を意味し、価値観や意見が似ている人たちが集まるコミュニティ(SNSや掲示板など)が原因で、特定の意見が増幅・強化されてしまう現象です。自分と似た考えを持つ人だけをフォローしたり、同じ意見を持つグループに参加したりしていると、コミュニティ内で同じ意見が繰り返し飛び交い(反響/エコー)、まるで自分の意見が「みんなの共通認識」「世の中の絶対的な真実」であるかのように錯覚します。反対意見は排除されたり、攻撃の対象になったりするため、特定の意見や思想がどんどん先鋭化し、過激になっていきやすくなるのが特徴だそうです。

「メディアリテラシー」

これらのことから、知らぬ間に、自分にとって都合の悪い情報や、反対意見が存在することを知らずに、視野が狭くなっているかもしれないことがわかります。フェイクニュースや誤った情報であっても、自分の興味に合致していれば優先的に表示されるため、誤情報を正しいと信じ込んでしまうリスクが高まるのです。また、集団心理によって、ネットいじめ、誹謗中傷、炎上行為などの誤った行動や過激な行動に走りやすくなるのだそうです。



子どもたちが、自ら考え判断し活用する力として、ネット情報との向き合い方、発信の仕方について学ぶことは、本当に重要だと思っています。学校においても、日々の教育活動の中で子どもたちに話をしております。ご家庭でも、どうぞ、話題にしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。